亀井通産

業容拡大と成長領域への挑戦 信用第一と地域密着が強み



▲遠山靖社長

亀井通産は創業 150 年以上の地元老舗企業として広く知られる。1869 年(明治 2 年)に初代亀井 覚平氏がその前身となる屋号「かめや」を熊本市新町で創業し、1965 年に現在の亀井通産に改称した。グループ企業はフルライン・フルファンクションの地元密着型食品卸企業として三温度帯での供給体制を誇る亀井通産、持株会社のカメイホールディングス、運送・倉庫業のフクワ物流、コンピュー

タ関係・システム管理、人材派遣業を担うカメイビジネスサポートの4社で構成される。インフラ整備の充実化を図るべく1999年に低温物流の嘉島低温センターを建設。2010年に同センターを増改築し2013年に嘉島低温第2センターを、2014年には北部低温センターを開設するなど業容拡大に対応できる体制の整備を推し進めてきた。

成長領域の低温事業では市販用、業務用に担当を設置し業務用ではデリカ事業とフードサービス事業とに分けてデリカではスーパー惣菜を、フードサービスでは外食や学校給食、病院給食などを幅広く展開。近年は多彩な食材を利用した商品提案やスタジオキッチンを活用したメニューの開発にも注力している。さらに地盤を構える熊本エリアを中心に縦は福岡や鹿児島、横は佐賀・長崎や大分・宮崎などの九州一円・中四国を視野に入れた商圏深耕に取り組んでいる。企業理念である「信用第一」、「地域密着」を土台に据えて同社にしか出来ない痒いところに手が届く、より便利かつ質の高いきめ細かいサービスの提供を目指していく。

かるなぁ

ベジタリアン食材30年の老舗ノウハウ活かし市場発展に貢献



▲余語啓一専務

大豆ミートをはじめ植物由来原料から作られる「プラントベースフード」。ここ数年、日本国内でも市場の成長が著しいが、時代に先駆けて地道に取り組みを続けてきたのが、ヴィーガン・ベジタリアン食材の製造・卸・販売を手掛ける業界老舗かるなぁ(名古屋市)だ。

「本当に今のスピード感はすごい。インターネットやスマートフォンが一気に普及した時のイメー

ジ」と、同社・余語啓一専務は昨今の市場拡大の 勢いを見つめる。

かるなぁは1990年設立。名古屋市内に店舗を構え、大豆ミート製品などの仕入れ販売をスタート。そこからオリジナル商品の開発や卸売事業への参入など業容を拡大してきた。現在は実店舗や通販での商品販売とともに、外食、中食、産業給食、病院などに食材を供給。21年6月期売上高は、前年比で15%を超える伸びを見せた。

オリジナル商品展開では、100% 国産の大豆をまるごと使用した「大豆まるごとミート」や湯戻し・水切り不要の「クイックソイ」、即食性の高いレトルト食品「インスタントヴィーガン」、冷凍総菜「ヴィーガンデリシリーズ」などをラインナップ。今秋には、より本物の肉の食感に近づけた「ウルトラヴィーガンミート」を発売した。

「大手メーカーの参入もあり、プラントベース フード浸透の流れはますます強くなってくるだろう。当社も約30年のノウハウを活かして、さらなる市場の発展に貢献していきたい」